



湘南桜友会報

第16号 平成24年12月1日発行

発行責任者 高澤 寛
編集責任者 佐藤 清崇
事務局 藤沢市鵠沼松が岡 4-16-26
野口 記一方

ご挨拶

湘南桜友会会長 高澤 寛 (昭和35年 政経)

立冬も過ぎ朝夕冷え込みもやや厳しくなってきましたが会員の皆様方恙無くお過ごしのこととお慶び申し上げます。また平素はご支援、ご協力賜り深謝致しております。私も会長を拝命し半年となりますが与えられた業務に邁進いたしております。

7月末の地引網大会を始め9月8日湘南に支部のあります大学のOB会、即ち湘南ユニバーシティクラブ第16回SUC交流親睦会に参加を致しました。今回は東京農業大学神奈川県校友会支部(湘南なぎさ会)の担当で開催され15校、約160名の参加者があり当会からも13名出席いたしました。主催大学の陸上部助監督をされております元オリンピック選手の谷口浩美氏の講演やアトラクション等ありなかなか盛り上がりおりました。

かねてより桜友会本部より要請のありました地域拡大の件に関し9月末頃平塚、中郡、大和市のOBの皆様へ湘南桜友会入会のお誘いのお手紙を差し上げました。また同時に藤沢、茅ヶ崎、寒川で未会入の一部の方にもお手紙を差し上げました。現在ぼちぼちと効果は出てきております。12月15日の年忘れクリスマス会には数名の新会員の方がお見えに

なりますのでご期待下さい。

最後に11月10日に行われました平成24年度秋季全国支部長会(桜友会、学習院共催)の内容をご報告いたします。春季全国支部長会は桜友会単独の会ですが秋の会は院側とも交流を図る意味で共催となっております。院側からは波多野院長、福井大学長、堀口、東園常務理事、岩崎女子大学生部長等の方がた、桜友会からは内藤会長はじめ副会長、常務理事、理事役員の皆様方出席でございました。内藤会長からはあらゆる面での院に対する協力とりわけ学習院未来計画28への寄付の要請がありました。波多野院長は志願者の減少、志願度の低下を危惧されており現在の学習院大学の立ち位置を分析され特に上品さ、真面目さ、教授陣の充実さの点では評価されるが親しみが持てるか? 明るいだろうか? 楽しそうであろうか? 等の点が欠けているのではと云った話をされておりました。東園教育担当常務理事からは学習院では明治23年に授業科目を制定した際特に養成したい資質として知力、体力、道徳、気品の四点を挙げました。知力体力は勿論ですが道徳と気品を挙げているのは学習院の特徴であります。

(次頁に続く)

湘南桜友会設立10周年行事のお知らせ!

お陰様で湘南桜友会が設立されて、来年で10年を迎えることとなります。

就いては5月25日(土)に開催予定の総会時に併せ10周年記念行事として、講師を招いての講演とピアニストによる演奏会を催す企画を進めています。

講演講師 中條 高德氏

(昭和27年学習院大学政治学科卒業後アサヒビール入社、代表取締役副社長アサヒビール飲料会長を経て、アサヒビール名誉顧問。多彩な講演内容で活躍中)

ピアノ演奏者 徳江 陽子氏(女子中等科を経てパリ国立高等音楽院卒。

1979年イギリス・チェスター市主催音楽コンクールピアノ部門最優秀賞「ヴォルシー・キースヒル賞」を受賞。以来、国内外での演奏活動とともに、後進の指導、チャリティーコンサートへ積極的に参加)

詳細は追ってご案内いたしますが、皆様のご出席をお待ち申し上げます。

企画担当副会長 内海孝夫

(前頁より続き)また昭和48年に「広い視野」「たくましい創造力」「豊かな感受性」と云う三つの指針を掲げました。現状の課題は少子化、国際化であり如何にして学習院らしさを保ちながら社会のニーズに答えていけるかが問われていますとの発言がありました。最後に桜友会組織委員会担当葛城副会長より支部間の交流を促進していただきたい旨の発言がありそれぞれのブロック別の討論になりました。湘南桜友会は神奈川県、千葉県、山梨県の南関東ブロックに属し早速鎌倉、神奈川、山梨の支部長と意見交換致した次第です。今後徐々に前に進めたら良いのではと考えております。以上ご報告とさせていただきます、皆様のご協力に心より感謝申し上げます次第です。来年もご指導ご鞭撻をお願い申し上げますと共に皆様にとりまして良き年を迎えられますよう心よりご祈念申し上げます。

～新幹事の抱負～

山口 彰吾 (昭和40年 経済)



昭和40年経済学部卒業の山口彰吾です。小・中・高校と怠け者、面倒くさがり屋のため、役員・幹事等すべてをエスケープしてきましたが、今回はどういう訳か幹事の一員に名を

つらねる事になってしまいました。

元来、無口で恥ずかしがり屋のため、入学後なんとか直そうと思い日本語ではだめそうなので心機一転、英会話をマスターと思いESSに入部しました。やはり口下手は治らずあきらめていましたが、たまたま読売新聞社主催の高松宮杯中学生英語弁論大会と日米学生協会の準備運営の手伝いの仕事が来まして、他校の人達と共に地方から弁論大会に参加する子供達を泊まり込みで世話をしたり、東京見物の案内をしたり、また、日米学生交流会参加の留学生と遊んだりしている内に、なんとなく人の役に立つ大切さ、楽しさを知りました。

たまたま今回幹事に任命されましたので学生時代の事を思い出し、他の幹事の方々と共に桜友会の運

営・地域拡大・会員増加等に努力したいと思います。

学生時代少々やっておりましたスキーを定年を機会に再挑戦し、日々足腰を鍛えるべく努力をと思うのですがなかなか長続きせず…。雪の便を楽しみに待つ今日この頃です。

中野 長司 (昭和50年 政治)

この度、幹事を仰せ付かりました中野 長司と申します。一人でも多くの方が楽しく集える会になるよう、微力ながら努めて参る所存ですので、宜しくお願い申し上げます。私は昭和50年に法学部政治学科を卒業し、



東京証券取引所に入所しました。当時学習院卒は、入所後に歓迎会をして下さった昭和39年政経学部卒の深山道久さんと、昭和21年旧制中等科卒の伊東昭典さんとの3人だけでしたが、その後2年続けて2人ずつ後輩が入所し、東証桜友会で毎年新年会や忘年会を行っておりました。現在では12名の大所帯(?)になっているようです。昭和初期に建てられたギリシャ神殿のような東証の歴史的建物が取り壊されるのと同時に退職し、現在は不動産賃貸管理業を営んでおります。在学中は安井達弥先生の「日本政治外交史」のゼミに入りました。安井ゼミに集まった学生達は偶然にも私と同傾向の思想の持ち主が多く、このゼミでの2年間の切磋琢磨によって、北朝鮮による拉致や中共人民弾圧軍(中国名 人民解放軍)によるチベット、東トルキスタンに於ける人権侵害・民族浄化等々に対して義憤を禁じ得ない保守系人権派の思想的基盤が作られた事を誇りに思っています。

～「春夏秋冬」～120歳を生きる～(その2)～

副会長 内海 孝夫 (昭和36年 政経)

昨春に念願が叶って、生まれ育った“港区の芝”にあった別宅を現在住んでいる茅ヶ崎へ引っ越した。別宅と言ってもあちらにいったらお世話になる予定の小さな別荘だ。引っ越し先が子供達の家族共々現

在の住まいに近く、何かと好都合だということからである。前方に丹沢の山々と富士山が一望出来、公園墓地ということもあり、お寺さんと違って二親等以内とかいう難しい制限はない。主の了解があれば誰でも一緒に住める。なんだかすっかり気楽になった！



今春になって、自分の住む部屋も決めておかねばと、趣味の陶芸を生かして“骨壺”を造り始めてほぼ完成した。瑠璃色に仕上げるつもりだ。“骨瓶”の骨はやがて溶けて水になってしまう儂いものなのだ、酔うと何時も涙ぐむ悪友がいた。この機会に調べてみたら、その原因は壺の内気温と外気温の温度差によって結露が生じて水が溜まるものなのだということが解った。それ以来安心したのか泣酒と能書がなくなった。

嫁いだ娘の子供が小学生の頃であつたらうか、我が家に近い茅ヶ崎海水浴場で、その孫と二人で蒼い夏の空を仰いで日光浴をしていたら、突然“じーじ、ご免で済んだら警察いらさないってどういうこと・・・？”と訊かれたことを思い出す。自分の親父から“人を殺して済みませんと頭を下げて、人の命はもうもどらないのだぞ！”と何かにつけて叱られたものだった。そんな懐かしい体験をもとに自分の子供達にも怒鳴っていたのが孫に伝わったのだろう。今流行りの“絆”という言葉をこんな事象にも当てはめていいのだろうか。

秋の文化祭シーズンになると、高校時代の物理や化学の授業時間に、先生の出欠の点呼に“ハイ”と潔く返事をしては、教室の後ろの窓から飛び降りて音楽室にしけこみ、音楽談義に明けくれていたものだった。ある時、琴と三味線のどちらの音を好むか・・・という議論になった時、小生は即座に三味線と答えた。琴の音色も素晴らしいが、三味線の音と音の“間”がなんともいえないと、最もらしい正論めいたことを吐いた様な気がする。最近漸く“間”の深さが解るようになってきた・・・やはりフォーレのレクイエム（鎮魂ミサ曲）は忘れられない。今年で100歳になられた彼の有名な日野原重明先生

は自分の臨終の時にはフォーレのレクイエムを聴かせてほしいと書している。小生も全く同感である。狭苦しい陶芸室の片隅で毛布に包まれて寒い冬を越した我が家の“カニさん”達が今年も庭で日向ぼっこをしている。どこか具合の悪いところはないのか、お腹は空いていないかと問うても、いつもにっこりと、だまって文句も言わずに笑っているだけだ。やがて来る落葉の時を健康に留意して主と一緒に元気で乗り越えてもらいと願うばかりである。

(23年6月投稿記事より)

[24年度事業報告]

～地引網大会～ 7月28日(土)実施

毎年大好評の地引網大会は今年は晴天(気温35度)に恵まれ、会員、ご家族、お子様、お友達を含め過去最高の87名のご参加を頂きました。子供達24名の宝探しのイベントのあと、全員で綱を引きましたが、今年は海水温度の影響で豊漁とまで行きませんでした。獲れたしらすを、生しらすで、天ぷらで舌鼓を打ち、釜揚げしらすをお土産に持ち帰り、和気藹々と夏休み冒頭の楽しい一日を過ごしました。

来年も大勢の皆様のご参加をお待ちしております。



～第16回SUC交流・懇親会～

9月8日(土)、グランドホテル湘南にて、第16回SUC(湘南藤沢地区大学同窓会)交流・親睦会が開催されました。今年は東京農業大学神奈川県校友会支部「湘南なぎさ会」幹事校として主催いたしました。15大学より160人の方々が参加され、また来賓として藤沢市長、寒川町長もご出席になり、“こけちゃいました”で有名になった数々のマラソン大会で優勝した、現東京農大の陸上部助監督の谷口浩美氏の講演とヒップホップダンスのアラクシ

ョンを楽しみながら、親睦を深めることが出来ました。来年の幹事校は慶応義塾大学「藤沢三田会」となります。



～秋季・ウォーキングの会～

10月24日(水)に24年秋のウォーキングの会を行いました。参加者は13名で、好天に恵まれ、茅ヶ崎の里山公園に広がる「谷戸」の自然を味わい、楽しい一時を過ごすことができました。歩行距離は約9000歩弱と頑張りました。

尚、来春は4月上旬に”桜の散策”を計画してみたいと思います。詳細ご案内は追って来年の2月中旬を予定しています。



～第7回湘南桜友会ゴルフコンペ～

11月5日(月)小田急藤沢ゴルフ場で第7回湘南桜友会ゴルフコンペが開催されました。

今回は3組10名。うち、湘南桜友会のメンバーは5名。いささか寂しい参加数でしたが、初参加で神名淳さん(女性33年短大卒)、早川克司さん(56年大学卒)のお二人が参加、ゲストの鎌倉桜友会3人、東京から参加のお二人と新鮮なメンバー構成で秋の一日ゴルフを楽しみました。

優勝は高澤会長、二位、三位も珍しくホスト会が上位を占めました。

プレー後の懇親会では各参加者が自己紹介をするなど交流の輪を広げました。

一つ一つのイベントが充実してこそ、会員拡大に繋がるとお思いますので湘南桜友会メンバーのさらなる参加を期待すると同時に魅力あるコンペにするためのご意見もお待ちしています。なお、当日清郷さんが仕事で参加できなかったため深江が当日の幹事代行を務めました。

【平成25年度事業計画・サークル活動予定】

- * 2月中旬 鎌倉・東慶寺 観梅、座禅体験
(学習院昭和寮会との共催)
- * 3月 日帰りバス旅行
- * 4月 春季ウォーキングの会
- * 5月25日(土) 第10回記念総会、懇親会
場所：グランドホテル湘南
- * 6月初旬 会報発行(第17号)
- * 7月下旬 地引網大会(辻堂海岸「五ろ引網」)
- * 9月 第17回SUC交流・親睦会
主催校：慶応大学 場所：グランドホテル湘南
- * 10月下旬 秋季ウォーキングの会
- * 11月 湘南を巡るゴルフ大会
- * 12月初旬 会報発行(第18号)
- * 12月 クリスマス・年忘れ懇親会
場所：グランドホテル湘南
- * 他 文化事業など地元への還元になる事業を計画

編集後記

時折しも、会報発行と衆議院総選挙の時期が重なりました。湘南桜友会も今年は大きな岐路を迎えましたが、日本の政治もやはり激変の波の中に突入しています。そんな中でも、大局を見つつ足元から地道に行動するよう心がけて参ります。(佐藤清崇)

会費納入のお願い!

年会費未納の方は2,000円を下記にお振込みをお願いします。

- * 郵便口座番号：00270-6-93815
- * 加入者名：湘南桜友会
- * 4月に送付した振込用紙をご利用いただくと、振込手数料がかかりません。